



子育て通信 6月号



6月10日は「こどもの目の日」
～育もう！6歳で「視力1.0」～

弱視の早期発見・治療や、低年齢化する近視発症予防のため、2023年に新しく制定された記念日です。



* 視力の育ち *

生まれてすぐ
0.01

1歳頃
0.2

2歳頃
0.4

3歳頃
0.8～1.0

6歳頃
1.0～1.2

3歳までに大人と同じ程度まで見えるようになります。

* 子どもの見る力を育てるポイント *

- ①遠近いろいろな距離の物を見る。
- ②じっくり物を見る、形や色がはっきりしたものを見る。
- ③テレビやタブレット・スマホを長時間見ない。

* 異常に気付くためのしぐさや癖 *



首を傾げる



目を細める



横目で見ると



片目で見ると



焦点が合わない

これらの症状に気付いた時は、眼科医に相談しましょう。

子どもの事故予防

子どもは、運動機能や危険に気付く（予測する）力が未発達なため、危険を回避しきれずケガや事故に繋がることがたくさんあります。特に、命に関わるようなケガや事故は、絶対に防がなければなりません。家の中に潜む危険や事故が起こりやすい場所を知って、対策を取りましょう。

【浴室】

入浴中や浴槽の残り湯でおぼれる。熱湯をかぶりやけどをする。
→残り湯はためない。
勝手に入れないようにドアロックをかける。

【階段】

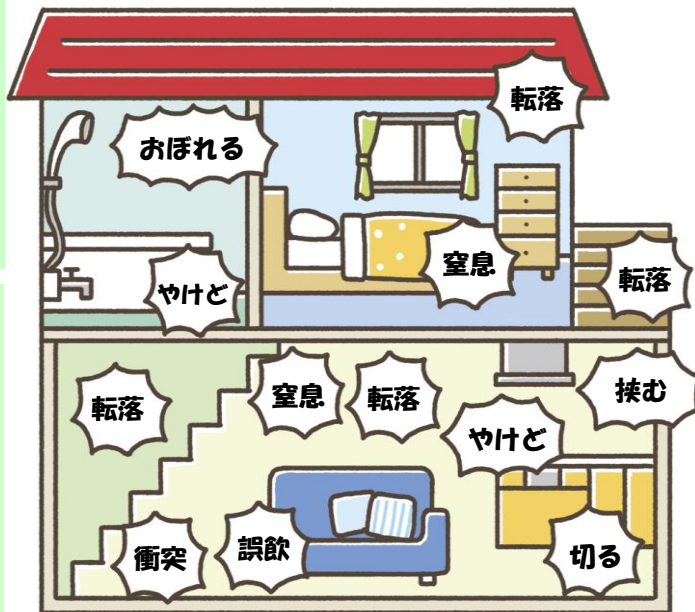
バランスを崩したり、踏み外したりして落ちる。階段の踊り場からのぞき込んで落ちる。
→子どもだけで昇降しない。ベビーゲートを取り付ける。

【リビング】

家具によじ登り落ちる、ぶつかる。タバコや電池などを誤飲する。
→子どもの手が届く所に危険物を置かない。危険な物は撤去する。家具の角（床）にクッション材を取り付ける（敷く）。

【キッチン】

調理台に手を伸ばし置いている刃物や食器が落ちてくる。鍋・やかん・電気ケトルでやけどをする。収納棚に指を挟む。刃物を取り出す。
→収納場所の扉にはチャイルドロックを取り付ける。入れないようにベビーゲートを取り付ける。



【寝室】

ベッドから落ちる。ベッドに登って窓から落ちる。ベッドと柵の間に挟まれ窒息する。
→窓際にベッドを置かない。窓に柵を取り付ける。

【ベランダ】

よじ登り、のぞき込んで落ちる。
→足台になる物を置かない。ベランダに出られないようドアロックをする。



ことばの育ちとかかわり



乳児期は、これから始まる長い生涯にとって、最も基本となるものを獲得する時期であり、大人の適切なかわりや支援が必要です。子どもとのかわりをことばに焦点を当てて考えてみましょう。

☆ことばが出る前 ～ おおむね0歳代～



ことばが出る前の赤ちゃんは、優しい声に安心感をもちます。おむつ替えや授乳などのときに、「おむつを替えようね」など優しく語りかけてから行動に移すとよいでしょう。

まだはっきりとことばを話すことができませんが、子どもが発した声や喃語、身ぶり、指さしから要求を読み取り、「これは〇〇ね。はい、どうぞ」などと応答的に対応することが大切です。

ことばにならない感覚や気持ちをことばにして返すことで、子どもは自分の気持ちをわかってもらえているという安心感をもちとともに、やりとりの楽しさを感じます。

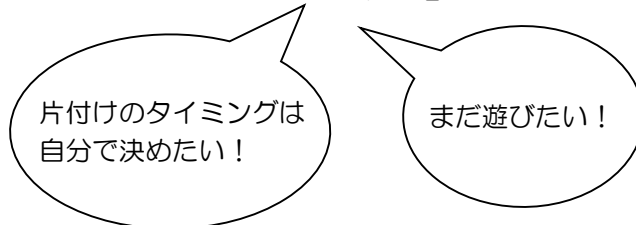
☆ことばが出はじめると…



発語が増えてくると、自我の芽生えにもなって「イヤ!」「ジブンデ!」という自己主張が強くなります。「イヤ!」ということばには、子どもなりの思いがたくさん込められていて、それが「イヤ!」という一言に集約されていることが多いようです。

例えば・・・

「片付けをしようね」 → 「イヤ!」



大人は、「イヤ!」ということばに込められた思いを読みとり、その思いに共感しながら行動を促します。この繰り返しによって、子どもは信頼できる大人に自分の思いを理解してもらえたという喜びを感じることができ、「まだ遊びたい」「自分でする」など、ことばで自分の思いや考えを伝えることができるようになっていきます。

また、人形や積み木、ブロックなどを使って遊ぶ中で、子どもはたくさんのことばを話します。「リンゴ」「ケーキ」などと言って食べる真似をしたり、「ジュース」などと言ってコップで飲む真似をしたりする姿がよく見られます。

大人も仲間に入り、「〇〇ください」「はい、どうぞ」のようなやりとりを通してその楽しさを実感し、ことばを使って遊ぶ楽しさを知ることで、ことばが豊かになっていきます。

子どもは、自分の思いを受け止めてもらうことで伝える喜びを感じ、もっと伝えたい、伝え合うって楽しいなと思うようになります。これが、コミュニケーションの土台へとつながっていくことでしょう。どの年齢においても、今、この瞬間を大切に捉え、親子のかわりを楽しみたいですね。

